



頭角を現す五年生

西南小の風
だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

五年生の成長が著しいです。年度も秋を過ぎると、子どもたちも世代交代の時期に入っていきます。学校ではそのことを意識した取組を進めています。

まず五年生が絶賛されたのが先週の就学時健診でした。縦の関係は、こうまで子どもの力を引き出すのだなと思ったり一方で、五年生の潜在能力の大きさを感じました。あのときに五年生が発揮した能力は、もともと持っていた力だと思っからです。

先日、『不親切教師のススめ』（松尾英明著 さくら社 二〇二二）という本を読みました。帯には「親切は子どものためならず」と書かれています。内容の全てに共感できたわけではなく、むしろ微妙に共感できない内容の方が多かったはずです。しかし、次に引用する部分には大いに共感しました。

「子どもの主体性向上に必要なことの一つに、自覚があると言える。何を良しとして、何を望ましくないとするのか。どちらの行動をとることもできるが、まずはその価値を知る必要がある。「履き物を揃える」という単純な行為一つをとってみても、まずはその価値を知らなければ主体性を持って行動することはできない。」

就学時健診時に、五年生は自分たちの役割をよく自覚していました。そして、健診に来た新入児を安心させ、来年四月の入学が楽しみになるような気持ちにさせることが大事だという価値を理解していました。その自覚や理解の深さは、持ち前の責任感だったり、人への優しさだったり、誠実さからくるもので、それが潜在能力だと思っのです。それが、目の前の新入児をよく見て、安心させ、楽しませ、喜ばせる行動につながっています。あの場面です。具体的な行動は経験として、また五年生の力になります。加えて、自分たちの行動が賞賛されることで自信や次の意欲につながる好循環が生まれました。

それが、今週の集団宿泊です。集団宿泊は、まさに主体性をもって行動することを学ぶ機会です。その中で大きな問題もなく、また、あっても自分たちで解決し、全員で活動を楽しむことができました。夜に覗きに行くと、互いに協力しながらとても楽しんでいる姿がありました。彼らのことです、手伝いに来た多くの職員に見守られる温かさを感じたことでしょう。集団宿泊という場での大事な価値を共有できていたと思っます。

この将来有望な五年生たちを（五年生に限らずですが）、今年の六年生にも負けない最上級生に育てるためには、彼らが自主的に望ましい価値を考えて行動する機会を持たせることが必要だと考えます。そのためには、私たち教師や保護者等の大人が、親切心やサービスマンとして必要だった支援の一つ一つを、本当に子どもにとって必要なことなのかを見直していく必要もあるようです。

五年生がいよいよ朝は、やっぱりいつもよりも静かに感じました。

校長室ニュース

コイン少年現る！



今週、校長室にコイン少年が突如現れました。彼が持っていたのは、明治六年の二銭銅貨。なんと西南小創立の年に発行された百五十年前の硬貨なのでした。それをわかっていて持ってきたくれたコイン少年に、校長はとにかく大感激・大喜びでした。ただ、コイン少年が持ってきた明治六年の二銭銅貨は、程度によっては数千円の価値があるものだけに、ビニール袋に入れてあったとはいえ、無造作にポケットに突っ込む少年が心配になったのでした。とにかく、ありがとう！

シェイクアウト訓練

校長室！

シェイクアウト訓練は地震への対応訓練です。午前十時に予定してしました。その時間、三年生が十五名程度校長室に来ていました。十時きっかりに放送がかかりました。「地震です。大きく揺れています。ただちに身を守るための適切な行動をとりますよう」



その時の三年生のとった行動です。みんながテーブルの下にすっぽりきれいに収まりました。合格です。